
協議会ニュース

86号

2003.1

愛知県自然観察指導員連絡協議会



●新春企画

「新しい年を迎えて」 愛知県自然観察指導員連絡協議会 会長 大竹 勝…………… 2

「ケモノからヒトへ」 愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局 佐藤国彦…………… 3

●特集

ネイチャーフィーリング研修会報告…………… 4, 5

●活動レポート

おおむかしの生き物の観察をしよう…………… 6

名前にこだわらない観察会…………… 7

一色の磯は小春日和…………… 8

●会員リレー…………… 9

●部会報告／名古屋支部20周年記念行事アンケート調査結果…………… 10, 11

●行事予定／編集部だより…………… 12

新しい年を迎えて



愛知県自然観察指導員連絡協議会会長 大竹 勝

自然観察会という言葉がなんの抵抗感もなく受け入れられる昨今ですが、さまざまな自然観察会が協議会以外でも多く行われています。私たちの目指した自然保護教育とどのような違いが有るのか、また最近話題になる環境教育との違いは、学校教育に導入された総合学習との関連はなどなど考えることが多くあります。

最近の協議会会員の観察会も内容が多彩になってきていますが、一方マンネリ化も見られます。指導員講習会以後の自己研鑽がどれだけ行われているのでしょうか。研修会以後努力をされている指導員も多いのですが、目の前の楽しさから、自然に親しむだけの観察会を行っている指導員も多いのです。講習会で学んだ「名前にこだわらない」は種名を知らなくても良いということとは異なります。参加者が自然を知るためには生態系を理解してもらうことが必要ですが、生態系を構成するのは多様な種です。全部の種を知る必要はないのですが、少なくともどのようなグループの生物群で構成されているかと言うことを指導員は理解している必要があります。

観察会参加者が第1段階の「親しむ」と言うことをは比較的用意に取り組むことができます。第2段階の「知る」と言うことは難しい問題です。生物の名前を知ることだけでは理解したとはいえません。名前を知ることが手段であって目的ではないからです。人を含めた他の生き物との関わりが理解できる必要があります。自然観察指導員としてここまで指導出来る人がどれだけいるのでしょうか。第3段階の「守る」というのは、希少種を守ると言うことではなく、それを含む生態系を守らなくてはならないのです。希少種だけを他に移植しても自然が守られたことにはなりません。移植した時点でそれは自然物ではありますが自然ではあり得ないからです。

人は自然に守られて生かされているのです。人間がいかに関自然を壊さないで生きるかを考える必要があります。自然という言葉が氾濫する中でも自然に目を向ける人は残念ながら少数派です。自然観察会の参加者を増やし、自然のすばらしさを体感して、自然の大切さを理解する人を多く育てなければなりません。そのために協議会としては指導員の資質の向上を目指す必要があります。観察会参加者から次世代の指導員を育成することも大切です。協議会のあり方も変革の時期にきています。会員の協力で本会がより発展することを願っています。

ケモノからヒトへ

愛知県自然観察指導員連絡協議会事務局 佐藤国彦

「人間は、他の動物とともに自然界の一員である。」という言葉は快い言葉ではあるが、はたして人間の特徴をどの程度まで物語っているのだろうか。確かに、雑木林の緑や野の花を見ていると、自然は人間の心を潤してくれる大切な存在であるという気がする。しかし、一方で自然ははたしてそれだけの意味しか人間にとって持たないのかとの疑問も生じてくる。

人間と動物を比較してその共通性を探し出せば、人間の行動や資質の多くは既に他の動物が行っているものの延長上にある。進化の上でも、動物から人間へ順次段階を経て変化しており、人に最も特徴的なものであっても、その萌芽なり兆候は動物にもあるものである。しかし、一方で人と動物の間には大きな間隔があり、人は動物とは違った生物とも考えられる。人間の特徴である知能、文化、社会化、個性などにおいて他の動物とは際立って異なった高度の機構を所有している。

自然界では動物の種は他の生物との関わりの中で生活しており、個体数調整すら他の生物との関わりの中で行われている。食物連鎖とか餌を取り巻く生物どうしの関係(資源の利用関係)などが微妙に絡み合っている。そうした他の生物との関わりに対応しながら、その中で種の維持保持を図るために様々な仕組みが働いている。

こうした生物に組み込まれた仕組みは、人類には当てはまらなくなっている。本能により様々な制御機能を持った動物と異なり、人は自分たちの意思又は社会の取り決めの中で、そうした調整を行わざるを得ないのである。人と動物との違いは、知性とか、二足歩行とか、道具の使用など以前に、人は動物とは基本的に異なる環境で生活する生物となってしまったことに注意する必要がある。人は本能(自然界の規制)を捨てて自らが生活を律する文化を創造し

た生物となったのである。

このことは、人は自分のことは自分で決めなければならない存在であり、それは毎日の生活から人類の将来までの全てが含まれているのであり、さらに今は地球そのものの未来まで責任をもたねばならなくなっているのである。明日のことを考えるとき、自分がそうした存在の一員であることを忘れないようにしたい。

NACS-J自然観察指導員 ネイチャーフィーリング研修会

11月16、17日の両日、刈谷市勤労福祉会館にて愛知県主催のネイチャー・フィーリング研修が、NACS-Jの講師陣を迎えて行われた。県内及び県外併せて30名の自然観察指導員及び実践活動者がきめ細かい研修に耳を傾けた。

ネイチャー・フィーリング研修・気づき感じたこと

●初めて知る、実技で体験わかる喜び「ふむふむ、そうだったのか」と嬉しく納得、謙虚にお役立ち学習。自然の案内ボランティア活動で既に各々自己啓発で学び、知っている、やっている体験豊富な方が受講と、既成の一般市民対象の観察会(散策会)の概念に、時代の要請、身近な地域社会への変化対応と視点を柔軟に変えて広く深く心の眼を開き聴講確認、再認識と模擬、擬似体験で活きている五感のいのちを研ぎ澄ます人間勉強会でありました。特に今回のNACS-J主催ネイチャーフィーリング研修会は「障害のある人と共に…」自然からの喜びをわかちあい、感動の共有、人のかかわりバリアを除いて自然を愛するすべての人へ、歓迎をし、待ってられる、期待されているネイチャー・フィーリング。

自然への出会いの橋渡しをする時に心底から支援して役立ちたいとH14研修の同期の素直な声を同感とうなずけられる。積極的な温かい気持ち、真摯な布施の精神、聡明な心の情報交換交流会と、相互愛支援姿勢にと発展、勇気と自信のパワーをつけていただきました。笑顔満足。晴れやかな2日間の体験学習。実習をふりかえって、耳、体、目の不自由な人と共に“楽しむ”ための自然観察に身構えないで「安全第一・



無理をしない・がんばらない・ゆっくり・やり続ける・障害度合、個人の属性は聞かない」下見、事前準備と当然の事と再確認。大賛成。

自然を愛する豊かな喜びを日常生活に取込む質の向上支援に貢献、答えはひとつではない、独りでは何も出来ない、今、何がやれて愛情・情熱を注げるか、他のために奉仕布施の心、互いの労い宇宙観を持てるか社会生活の中で制約されて育んできた文化を受け入れられる器量と気働きのうまいバランス感覚で楽しく燃焼できるかにかかっていると次回開催のネイチャー・フィーリング観察会を笑顔で歓迎、今から楽しく待ち遠しく期待しているのであります。

横田勝(名古屋市)

※横田さんが運営されているWebサイトです。(ネイチャーフィーリング関係の内容あり)

“いだかの森Fan” <http://i-will.jp/yoko/idaka/>

●からだの不自由な人達との数少ない観察体験の中で難しさを感じている時、庄内緑地ネイチュア・フィーリングに関わらせて頂いて、半年ですが間の悪い声の掛け方、接し方に悔いを残した事もありました。そんな折この度の研修、緊張と期待を持って参加致しました。

車イスでの段差、傾斜のある道での押し方の難しさも体験。白杖の大切さ、観察、誘導の仕方・・・、初体験とは言え真剣、ドキドキする事ばかり、改めて五感の感動の多くを体験する研修でした。この体験を基に気負わず、ゆっくり続けられるよう参加者からも学ばせて頂き、みんなと自然のすばらしさを分かちあいたいと思いました。



横田法子(名古屋)

研修は終始和気あいあいの雰囲気の中で進行し、講師のひとりからも「これほど熱心かつ、なごやかに講習ができた事は稀です」との言葉もあった。

★講習会の主な内容★

<野外実習>

- ①「耳の不自由な方との自然観察」
 - ・野外でのコミュニケーション手段・安全への配慮の仕方など
- ②「体の不自由な方との自然観察」
 - ・車いすの扱い方、車いすからの視点の高さ・安全への配慮の仕方など
- ③夜の自然観察(自由参加)
- ④「目の不自由な人との自然観察」
 - ・目を使わないで観察してみよう
 - ・誘導の仕方や安全への配慮の仕方など

<講 義>

- ①「～いつでも、どこでも、だれとでも～ネイチュア・フィーリング自然観察会をはじめてみよう」
- ②「からだの不自由な方との自然観察のために知っておきたいこと」

“おおむかしの生き物を観察しよう”

～1700万年前の海底探検～

■2002年11月9日(土) ■岐阜県瑞浪市化石博物館およびその周辺 ■参加者：大人7名、子供5名

11月9日、尾張支部研修会として地層・化石を対象とした研修会が行われた。普段の観察会ではあまり対象とならない相手に、参加者の指導員たちはまた新たな“？”に立ち向かうこととなった。

今回の講師・案内役を務めたのは尾張支部の山岡雅俊さん。ここ瑞浪には小学生のころより通っているようだ。

午前「へそ山」での地層の観察や、地下壕の天井や壁に露出した数多くの化石を見学。博物館内では、ボランティアスタッフの方にくじらや貝類、植物などの化石についてや、東海地方の化石の分布についての解説をしていただいた。

野外学習地へ移動。ここでは化石の採集(許可が必要)が体験できる。先ほど博物館でお世話になったボランティアスタッフの方にここでも同行していただき、簡単に採集方法の説明を受けたあと、各自ハンマーやタガネを持って採集に取りかかる。野外学習地ではホタテガイやオオキララガイなどの貝類の化石やホソバシラカシの葉の化石、運がよければ「サメの歯」の化石が見つかるそうだ。しかし、貝類の化石

の破片はいくらでも落ちているが、これは！と思うものはなかなか見つからない。

コツはハンマーやタガネなどで化石を掘り出すのではなく、含まれていると思われる土のかたまり(砂質シルト岩)を見つけたら、カッターなどでじっくりと削り出していくとのこと。

各自泥まみれになりながら作業を続け、出てくる化石を丹念に観察する。その目は1700万年という時の流れに、化石以外の何かも感じとっているようだった。

取材／吉田裕孝(編集部)

①



この中にいくつかの化石が隠れているはず。

③



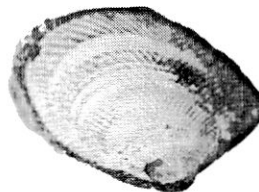
だいぶ顔を出してきた。

②



カッターで削りとっていく。

④



取り出した化石。

名前にこだわらない観察会

定光寺自然観察会 大谷敏和(尾張支部)

1995年1月29日(日)に定光寺自然観察会がスタートしましたが、「知らない植物や昆虫が出てきたらどうしよう。名前を言った次に何を説明しよう。」と毎回緊張しましたが、松尾さんや北岡さんなどが応援に来てくれた時はほっとしたものでした。ところが私にとって運がいか悪いのか1年目の参加者はほとんどありませんでした。そのおかげで定光寺周辺を気ままにぶらぶら歩くことができ、いろいろな道が覚えられ、またどこに行く去何が見られるかが分かってきました。翌96年4月から第二土曜日に変更することによって瀬戸市社会教育課のサタデープランに掲載が出来るようになりました。これで瀬戸市内の小中学校の子どもたちも定光寺観察会をPRできるようになりました。それから子どもの参加者がぼつぼつと増えはじめました。99年度から瀬戸市、2000年度からは瀬戸市と瀬戸市教育委員会の後援をとり、役所との関係もできました。2001年度からは、4人のスタッフが当番を決め午前中の活動になりました。

当初講義のように一方的に説明しては、理科の授業を野外で聞くようなもので参加者は楽しくありませんでした。拾ってきた枝などで夢中に造形する子どもたちの姿や楽しく草笛を鳴らしたり、ウラジロの葉を飛ばし足りして遊ぶ子どもたちの姿を見て、まず自然に親しむことから入ることの大切さを学びました。

子どもは、きれいなキノコを探すのが好きですね。「えっ、それもキノコ?」「ここにもキノコが!」

カエルをじっと見ていると一瞬長い舌を出して小さなバッタを食べたじゃありませんか。「今日来てよかった!」この子どもの言葉からも観察会の心得のヒントが得られたような気になりました。花に集まる虫たちを注意深く見ていると食う・食われるのドラマを見ることができます。

秋も深まったころ樹の根元でガマガエルをみつけました。「わあー、こんなところで冬眠するんだ」写真で見るのとは感動が違います。

「そうか。観察会というのは定光寺というフィールドでしか見られないドラマをみることなんだ」「これは何々です」というのは定光寺でなくても見られるんだ。教室でも説明できるんだ。本や写真では見ることが出来ないものを見るんだ。チョウがクモに食べられる瞬間なんかとても感動する。あそこへ行くとシイの実いっぱい拾って食べれるな。指導員の仕事はいつもフィールドを歩くことが必要なんだ。



セミの羽化。このような出会いのためにはやはりフィールドへでること!

●東三河支部活動レポート

一色の磯は小春日和

■2002年11月17日 ■亜羽根町一色海岸

■参加者：指導員18名、一般20名



11月17日の日曜日、亜羽根町一色海岸は、絶好の小春の日よりでした。指導員18名、一般参加者20名、大学生も小学生も、のんびり観察会を楽しみました。

はじめに、赤羽根育ちの大羽さん、50年間の浜辺の変化を話します。赤羽根漁港の突堤が砂の流れを止めるためか、砂浜が広がり、磯のあたりも1mくらい堆砂が増えてしまって、ワカメ・ノリ・カキ・などがめっきり減ったといいます。サーファーも増えた1つか？

次は、岩崎さんによる磯の生物の観察。磯の干満に合わせ、住みよい場所を見つけています。

フジツボ・カサガイ・タマキビ・カメノテ・イソギンチャクや小さい魚もいました。

星のさんの声に沖を見れば、ウミウの群れが移動中。あとからあとから一列になって海面近くを飛んでいきます。

植物の観察は荒巻さん。潮風に耐えなて崖をおおっている樹々の形や葉のしくみを見ます。砂浜の植物たちの根の張り方も調べてみました。鍵の手に曲がった浜には、流木やゴミが大量に打ち上げられています。良く見れば、ヤマグルミや軽石などもあつたりします。ナミマガシワなど、貝がら集めにご執心の人も。



午後は、柴田さん、鈴木千代子さんを中心に「芋煮」鍋の会となりました。大釜いっぱい具たくさん汁は、みんなのおなかをタヌキにして余りある程。飲み物がちょっと淋しいとか

の声もあったとか。でも、大体は車ですから…みんな満足でした。

間瀬美子(東三河)

会 員 リ レ ー

【山田妙】(やまだたえ・名古屋支部)

先日、知多の美浜町を訪れる機会があり、近くの里山を観察したときに、わき水を見つけました。子供の頃に飲んだわき水のおいしさを思いだし、この水でコーヒーを飲もうという提案をしました。思ったよりわき水の量が少なく、水を集めるのにとっても苦労しましたが、グループのメンバーの方の協力を得て、おいしいコーヒーを飲むことができました。生水も少し試飲

してみたので、ちょっと不安だったのですが、その後体調を崩したという話もなく、ほっとしました。水をわかず際に美浜町産の竹炭を入れたのが、おいしさをまず一因だったかもしれません。いつまでもおいしい水がわくような里山であってほしいです。

★バトンを渡す人

知多支部 吉村暁夫さんをお願いします。

【柴田美子】(しばたよしこ・名古屋支部)

家の近くの緑地をフィールドとして、月1回の観察会と保護作業をやっています。自然観察指導員というより、柴刈りのおばさんです。

慣れない間伐や笹刈りの作業は、腰や手首・膝など痛みますが、林の中でこれまで気付かなかったマメナシの木にひょっこり出会ったり、思いもよらないような場所でコクランやコヒロ

ハハナヤスリを見つけたり、その都度、何かしら発見があり、今嵌まっています。

ただし、疲れが溜まらないように、また、自己満足に陥らない心がけていますが…。

★バトンを渡す人

尾張・名古屋支部の高谷昌志さん宜しく。

【三田孝】(みたたかし・西三河)



私は朝6時30分に犬の散歩に出るのを日課としています。家のまわりには田んぼが広がり、農道と川の堤防を1Kmほど歩いています。毎日同じ時間に同じコースを通るようにして、土手や田んぼ、川にいる生き物たちの定点観察を

楽しんでいます。ナズナ、ホトケノザなどの雑草たちは年末からすでに咲き始め、春になるにつれにぎやかに咲きそろっていきます。それぞ

れ開花のピークは微妙にずれていて、彩りの変化がけっこう楽しめます。

秋から春にかけては日の出の頃にあたり、朝焼けの美しい瞬間に出合うととても得をした気分になります。日の出時刻の変化により太陽と地球の運行を体感でき、自然もそれに支配されていることを強く感じています。

★バトンを渡す人

では次のリレー投稿は東三河の会の星野芳彦さんをお願いします。(観察会ご無沙汰でごめんなさい。)

部会報告

■11月29日(金)午後7時～9時

■伏見NP0センター

■参加者:13名

各部会とも、会を追うごとに参加者が少なくなっている。メンバーが開催日によって入れ替わりったり、限られてきたりしている。そのためかそれぞれの部会だけでは話が煮詰まらない。合同部会を開くことにして、実施内容ごとに担当者を割り振ってはどうかという話が出ている。

今回は企画部会と観察会部会が合同で、総会

に提案する規約の改正内容を検討した。第一条を(名称)のみにし、第二条(目的)と第三条(事業)についてまで話し合う。

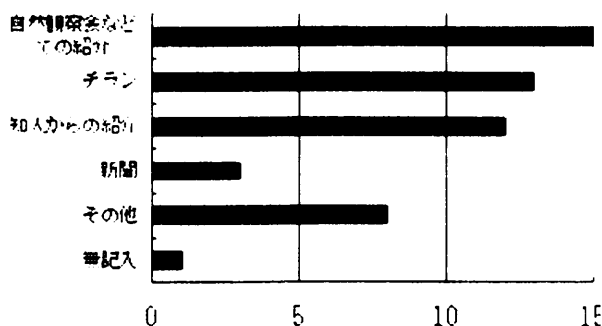
目的に「自然を守る」を、事業に環境教育や自然保護という文言を入れるなど、活発に意見交換をする。規約改正については多くの人の知恵が必要である。関心のある方の参加を望む。

(鬼頭)

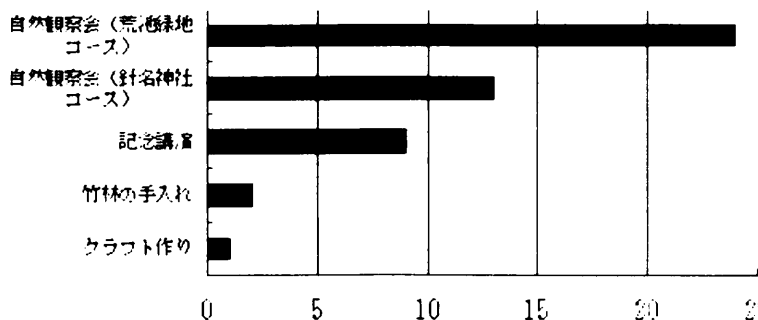
名古屋支部20周年記念行事 参加者アンケート結果

9月23日に名古屋市農業センターで開催されました名古屋支部20周年記念行事のアンケートの結果を、一部ではございますが紹介させていただきます。(総回答数46枚)

●この行事のことを、どのような方法でお知りになりましたか？



●どのプログラムに参加されましたか？



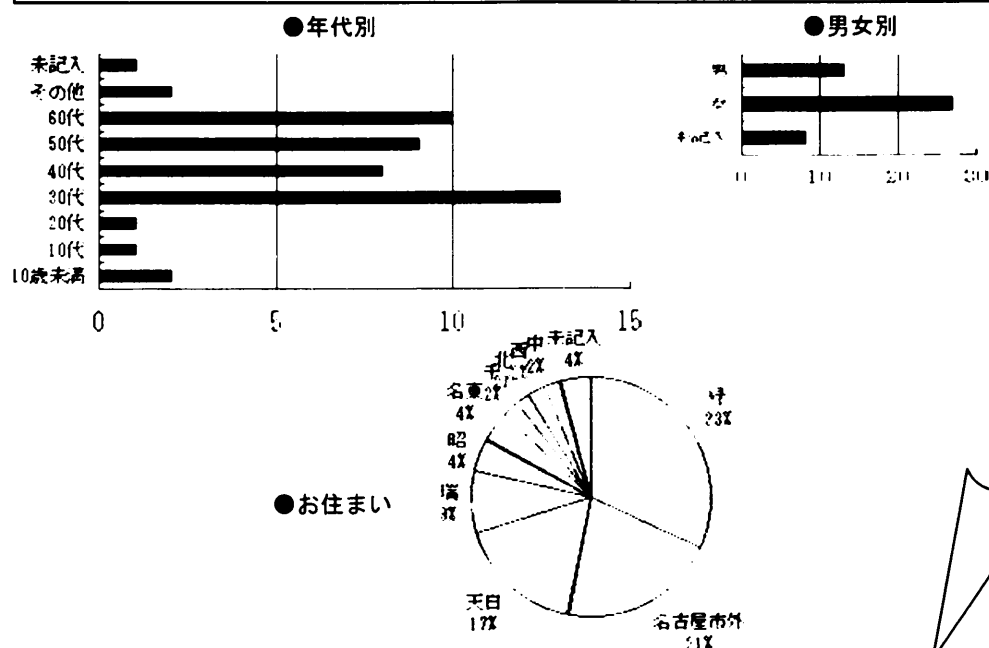
●プログラムに参加されての感想…自然観察会(針名神社コース)

- ・ 親子で自然を楽しませていただき感謝
- ・ 指導員の丁寧な説明に感謝
- ・ 指導員の説明も大変興味深く、かつわかり易く沢山のことを学ばせていただいた
- ・ いろんな事がわかって良かった
- ・ 身近な環境の中にも豊かな自然があることを知り、自然に触れ心も洗われた一日でした
- ・ どんぐりの種類が沢山あることに改めて感心した
- ・ クモの糸は、たての糸がくっつかないのがびっくりした
- ・ また、機会があれば是非参加させていただきたい
- ・ 知らなかった知識を教えていただいたり、子供の発見を共に感動して共感して下さったりして親子参加がとても充実した

●荒池緑地の自然に触れてみての感想

- ・ 都市化が進んだ
- ・ これからも家族で自然に沢山触れてみたい
- ・ 意外と緑が多いのに驚いた
- ・ 市内からあまり離れていないエリアで、このような美しい自然が残され保護されていることは素晴らしい
- ・ これからも人と自然が共存できる緑地化が推進されることを願い、何らかの形で協力してゆきたい
- ・ ニュースや新聞などによる机上の知識ではなくて実際に自然に触れてみるとあらためて残してほしい大切なものと思います。
- ・ 是非これからもこのようなイベントを

●参加された方



行事予定

日時	行事名	場所	内容	問合せ
2003 1/7～13	パネル展示等	栄セントラルパーク 地下情報ギャラリー	各観察会の案内パネル、写真・観察会チラシの展示等	052-771-8004 石井さん
2003/3/21	平成15年度協議会総会	未定	—	—

総会のご案内

平成15年度愛知県自然観察指導員連絡協議会通常総会が2003年3月21日「春分の日」(予定)に開催となりました。場所・時間など、詳細は次号でお知らせいたします。

●編集後記

先日、私の妻が近所の人と話をしていたときのこと。「あそこにあやしい人がじっと立っている!」と聞いた妻は、その人物をちらと確認してひとこと。

「うちの主人です。」

編集作業の気分転換に、ちょっとした近所の自然観察をすることがあるが、ただでさえ「あやしい」風貌の私が双眼鏡やカメラを持っ

て川を覗いたり地面に這いつくばったりしていると、かなりの「あやしい」人物となる。

公園や山の中ならともかく、けっしてファッショナブルとはいえない格好で近所をうろうろと自然観察をするのは、行動力と少々な勇気、そしてさわやかな笑顔が必要であるようだ。

(吉田裕孝)

●スタッフ

石井幸子、石田晴子、岩沙雅代、鬼頭弘、国安俊夫、近藤記巳子、佐藤国彦、杉浦節子、中西たかお、浜口美徳、符川真弓、降幡光宏、古川俊江、横井邦子、横田法子、吉田裕孝

【今号の表紙】

迎春の花として、欠かせないセンリョウ…。赤い実が強いパワーを感じさせ、新年にふさわしい。また、マンリョウ(万両)、センリョウ(千両)ともにその美しさと縁起のよい名が好まれる。(K)

●本年もよろしくお願いいたします。 (スタッフ一同)

※みなさまから頂いた原稿は内容を変えない程度に校正することがございます。あらかじめご了承ください。

●ご意見・ご感想をお待ちしております。

愛知県自然観察指導員連絡協議会 協議会ニュース編集部
491-0057 愛知県一宮市今伊勢町宮後
字西松山43-1 大野荘B-106 吉田裕孝
TEL/FAX 0586-43-3829